

6:14 彼らの父祖の家のかしらたちは次のとおりである。イスラエルの長子ルベンの子はエノク、パル、ヘツロン、カルミで、これらがルベン族である。

6:15 シメオンの子はエムエル、ヤミン、オハデ、ヤキン、ツォハル、およびカナン人の女の子サウルで、これらがシメオン族である。

6:16 レビの子の家系の名は、次のとおりである。ゲルション、ケハテ、メラリ。レビの一生は百三十七年であった。

6:17 ゲルションの子の諸氏族はりブニとシムイである。

6:18 ケハテの子はアムラム、イツハル、ヘブロン、ウジエルである。ケハテの一生は百三十三年であった。

6:19 メラリの子はマフリとムシである。これらはレビ人の諸氏族の家系である。

6:20 アムラムは父の妹ヨケベデを妻にめとり、彼女はアロンとモーセを産んだ。アムラムの一生は百三十七年であった。

6:21 イツハルの子はコラ、ネフェグ、ジクリである。

6:22 ウジエルの子はミシャエル、エルツァファン、シテリである。

6:23 アロンは、アミナダブの娘でナフションの妹であるエリシェバを妻にめとり、彼女はナダブとアビフ、エルアザルとイタマルを産んだ。

6:24 コラの子はアシル、エルカナ、アビアサフで、これらはコラ族である。

6:25 アロンの子エルアザルは、プティエルの娘のひとりを妻にめとり、彼女はピネハスを産んだ。これらはレビ人の諸氏族の一族のか

しらたちである。

6:26 主が「イスラエル人を集団ごとにエジプトの地から連れ出せ。」と仰せられたのは、このアロンとモーセにである。

6:27 エジプトの王パロに向かって、イスラエル人をエジプトから連れ出すようにと言ったのは、このモーセとアロンであった。

6:28 主がエジプトの地でモーセに告げられたときに、

6:29 主はモーセに告げて仰せられた。「わたしは主である。わたしがあなたに話すことを、みな、エジプトの王パロに告げよ。」

6:30 しかしモーセは主の前に申し上げた。「ご覧ください。私は口べたです。どうしてパロが私の言うことを聞くでしょう。」

イスラエルを救い出すと言っても、それがそれほど規模なのか、ここに記されています。規模だけでなく、イスラエルの部族が読者の時代にまで続いているとしたら、それは歴史的にも重要な民であったことがわかります。

このように主は歴史に働かれる神です。力ある神です。私たちの人生の個人的な歴史、家系の歴史、教会に歴史も同じように主に導かれてきたのです。主の力に信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

